

「公共交通シンポジウム 2019」を開催しました！！

(関東運輸局)

関東運輸局交通政策部では、2019年10月8日(火)に江戸東京博物館大ホールにて公共交通シンポジウム2019「進む変革の波！地域の未来を担う公共交通」を開催しました。

当局では2017年10月より「関東運輸局ビジネス講座」と銘打ち、公共交通・観光・物流・バリアフリー等、運輸局の業務に関係する題材をテーマに、外部より講師を招いての公開講座を開催しています。本シンポジウムはそれらの特別回(第18回)として開催したもので、定員を超える315名もの方々にお集まりいただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。

当日は、初めに、地域公共交通に関する優れた取組を行った団体を顕彰するため今年度創設した「関東運輸局地域交通優良団体等表彰制度」の初年度受賞自治体である桜川市から取組についてご説明をいただいた後、(一財)計量計画研究所 牧村 和彦理事及び福島大学 吉田 樹准教授に基調講演をしていただきました。

牧村理事からは「MaaS(マース)と交通まちづくり」と題して、都市や交通が抱えている問題、MaaSの意義についてご説明があったほか、MaaS時代の交通まちづくりについて、建物・交通結節点・道路などのリデザインも必要になるという視点を盛り込むことの重要性などが語られました。

また、吉田准教授からは「ICTの高度化時代の公共交通—行政・交通事業者に求められるリテラシー」と題して、MaaSやAI、オンデマンドなどを地域の交通問題を解決するツールとして、どう活用していくかについて、市民の交流を促し、暮らしを支援していくために公共交通計画は今後どうあるべきかという観点を踏まえつつ、講演されました。

引き続き、事例発表として、東急(株) 長束氏から「伊豆の観光型MaaSの実証実験」について、(株)トラフィックブレイン 太田氏から「首都圏の公共交通オープンデータ事情等」について、会津若松市 柏木氏から「データを活用した地域との連携・協働」について、四国・徳島の(株)電脳交通 北島氏から「クラウド型タクシー配車システム」を活用した課題解決について、ご紹介・ご説明をしていただきました。

また、最後に、座談会形式で吉田准教授をモデレーターとして、ご登壇いただいた講師の皆様で、これからの交通を巡る動きや求められる施策等についてディスカッションしていただきました。

なお、今回のディスカッションに当たっては、来場の皆様からアンケートフォームを利用してご質問を受け付け、この質問に応じる形として、来場者とも一体感をもって進められました。また、終わりに当たって、各講師が来場者に対し「まずここから始めたら良いと思う事」をアドバイスしてくださり、各講師からの



大盛況の会場



牧村氏



吉田氏



講師の皆様にご登壇いただいた座談会

メッセージ等が分かりやすく伝わったかと思えます。

本シンポジウムの開催にあたりご協力頂いた皆様には、事務局一同、心から感謝いたします。また、ご参加頂いた皆様には、当シンポジウムで聞いて、見て、感じて頂いたことが、地域公共交通の課題改善や新たな技術やデータを活用した利用者目線の地域公共交通の実現に向けて、少しでもお役に立ちましたら幸いです。

なお、本シンポジウムにおける当日の講演資料の抜粋等については、関東運輸局HP (http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_seisaku/seminar/index.html) に掲載しております（今後掲載内容は順次更新して参ります）ので、ご参照ください。

※右のQRコードからもご覧いただけます。

